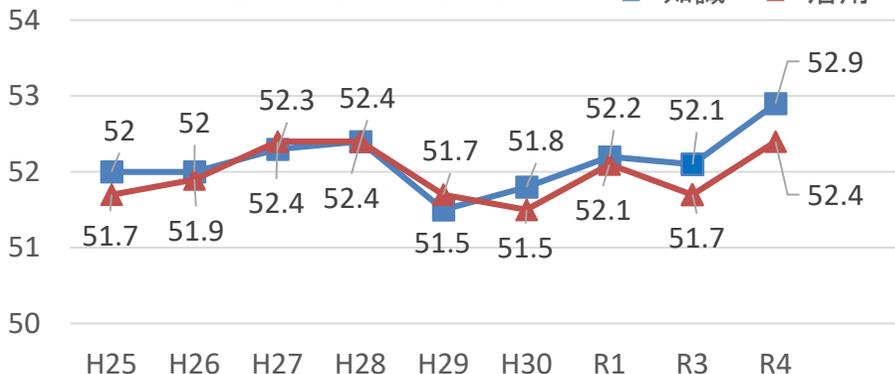


※目標値・・・学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの。

## 結果のポイント

### 1 偏差値の経年変化

■知識 ▲活用



○知識と活用ともに偏差値50を上回っている。

### 3 領域別の結果

領域	県正答率	全国正答率	目標値
数と計算	71.5	65.2	66.1
図形	64.5	58.7	62.9
変化と関係	73.7	66.4	68.0
データの活用	59.0	52.3	51.3

○全ての領域において、全国正答率及び目標値を上回っている。

### 2 観点別の結果

観点	県正答率	全国正答率	目標値
知識・技能	76.1	69.5	69.3
思考・判断・表現	51.8	46.8	51.0
主体的に学習に取り組む態度	53.7	47.4	51.4

○全ての観点において、全国正答率及び目標値を上回っている。

### 4 解答形式別の結果

解答形式	県正答率	全国正答率	目標値
選択	69.8	63.8	66.2
短答	73.0	66.8	65.4
記述	28.1	22.0	30.0

○「選択」及び「短答」において、全国正答率及び目標値を上回っている。  
 ▲「記述」において、目標値を1.9P下回っている。

## ■ つまづきが見られた問題

大問11(2) 県正答率21.1%

【ねらい】面積の単位の関係を説明している。

【問題の概要】 $1\text{m}^2$ は何 $\text{cm}^2$ になるかを手順に沿って求める。

【正答】10000 【誤答例】100

### ◆ 指導のポイント

○面積の求め方を理解できるようにするとともに、面積や単位についての感覚を身に付けることができるように指導する。

### ★ 指導の具体例

身の周りにある正方形や長方形の面積を実際に調べる活動を取り入れる。

【調べる対象】折り紙、机の面、教室の床、花壇、体育館 等



★面積の見当を付けることは長さよりも難しいため、まずは調べる対象の縦と横の長さの見当を付け、およその面積を求めることから始める。

★その際、調べる対象の大きさに応じて、単位間の関係に注意しながら適切な単位を用いることができるようにする。

大問17(1) 県正答率24.0% 県無回答率12.9%

【ねらい】図書室を先週利用した人数と今週利用した人数を表から選び、その人数の違いを説明している。

【問題の概要】違いを求めるのに必要な数値を表から選び、その数値を示した上で、人数の違いを説明する。

【正答例】

先週利用した人数は(ウ)の56人、今週利用した人数は(キ)の48人です。人数の違いは、 $56 - 48 = 8$ で、先週利用した人数が8人多いです。

【誤答例】

人数の差を求めているが、どちらが何人多いかの結論の記述が不十分。(14.5%)

### ◆ 指導のポイント

- 複数のデータの中から、必要なデータを読み取ることができるように指導する。
- 論理的な説明の組み立てに慣れさせる。

### ★ 指導の具体例

目的に応じてデータを集めて分類整理する活動を取り入れる。

★問題解決の見通しをもたせる際は「データを集める観点」を明確にする。

★説明活動では「判断した根拠を明らかにしながら説明する」や「説明の過不足を児童同士で補っていきけるような展開」を重視する。